

令和7年度 リニア推進特別委員会 管内視察レポート

駅前広場	
所感等（良かった点、感じたこと等）	課題等（気になる点、課題と感じる点等）
小平委員 雨水排水調整池が思ったより小さかった。	小平委員 雨水排水調整池の容量は最近の豪雨の設計と思うが、降雨時間が長くなった場合どの位まで大丈夫なのか。
小林委員 駅前広場については何度か視察をさせていたでいるが、今回は調整池の工事箇所と状況を間近で確認させていただいた。より目に見える形で工事が進んでおり駅前広場一部供用開始へ向けて賑わいの創出に期待したい。	小林委員 駅前広場一部供用開始について、賑わいの創出に期待する一方で、駅舎本体や本線の工事が実施される中での共用であるため様々な課題が今後発生する可能性があるためしっかりと注視してまいりたい。
大平委員 今回の視察で実際に現場を確認することができ、駅前広場整備の工事進捗状況について、具体的なイメージを持つことができた。 2028年の駅前広場供用開始に向けて、着実に工事が進められており、今後のリニア開業に向けた地域の変化と可能性を感じる視察となった。	大平委員 今回の視察では特に感じられなかった。
正木委員 特になし。	正木委員 これは、自治会から出された意見でまだ大きくまとまったものではないので、あくまでも参考までに 飯山駅の大きな失敗というか課題は、駅ホームからの反射熱が熱すぎる、ということ。作ってみて初めてわかった、と 次は、土曾川の軟弱な基盤 けっこう簡単に作られているらしいので、しっかりと整備した方が良い、と
野崎委員 特になし。	野崎委員 遺跡の発掘調査を路線上は JR がするとのことだが、市でまとめてすれば良いと感じた。 かなり高低差のある土地をどの様に造成するのか気になった。

遠山委員 まだ全容が見えないので何とも言えない。	トンネルから出る残土を使い全体に嵩上げすればより使い勝手も良く、南アルプス等の眺望も良くなったのではないかと感じた。 移転を余儀なくされた人のことを思うと、これほど広い面積が本当に必要なのかと感じた。せめて区画整理の手法を使い近くに住める様にできなかったものかと思う。 遠山委員 まだ付近に住宅が見られる。 トラブルが無く近隣住民の理解を得られるかどうか気になるところだ。
--	---

伊那山地トンネル青木川工区（大鹿村）	
所感等（良かった点、感じたこと等）	課題等（気になる点、課題と感じる点等）
小平委員 本坑の中まで視察させていただき土質の変化や、青木川下の状況また中央構造線が拝見でき実際の進捗工事状況が分かった。 小林委員 伊那山地トンネル青木川工区の現状での最深度まで見学させていただいたことに感謝申し上げます。 トンネル施工について、非常に軟弱な地盤(粘土質)であり、難工事とのこと NATM 工法にて進めているが軟弱地盤ゆえにロックボルトを通常よりも長く打ち込み対応していると聞いた、このような点からもより安全安心なトンネル施工に期待する。 本来トンネルは登り勾配を付けて進めていくが、今回は地盤の関係もあり下り勾配で進めているとのこと、湧水については自然落下が望めないため、ポンプアップにて対応しておくことから排水についての予算も通常工事に比べて加算されている。 大平委員 現場では、工事用車両のタイヤ洗浄や作業区域の安全管理など、掘削に伴う管理体制が徹底されており、非常に大規模かつ厳しい現場であることを実感した。 現時点で生活用水や農業用水などの水利用への影響は出ていないとの説明を受け、不安要素に対して最大限の配慮をもって丁寧に対応いただいていることに安心感を持った。 今後の地質条件によっては工期に影響が出る可能性があることなど、計画通りに進める難しさも感じ取ることができた。 非常に大変な現場であることを改めて認識でき、大変勉強になる視察であった。	小平委員 砂土質がいつまで続き工期が今後どのようなになるのか 小林委員 軟弱地盤であることから、安全第一で工事の施工をお願いしたい。 大平委員 今回の視察では特に感じられなかった。

半の沢発生土置場（中川村）	
所感等（良かった点、感じたこと等）	課題等（気になる点、課題と感じる点等）
小平委員 盛り土は53万m³の半分で高さは20mくらいでしたが圧巻でした。 トンネル発生土の活用がもっと飯田市でも活用できれば良い。	小平委員 風水害や地震による耐久性は確保できていると思うが、1000年に1度など災害が起きているのでどのくらい設計計算してあるのか
小林委員 盛土面積約4.8ha、盛土量約53万m³との説明であったが、実際に工事場所にて確認するとその面積と量に驚かされた。 盛土により「半の沢橋」の高さまで盛土されることにより、橋がなくなり道路となるとのこと、住民の安全な道路インフラ整備としてとても有効であると感じた。	小林委員 本線が完成するまでの間の仮設道路、または迂回路についても十分な安全を確保していただきたい。
大平委員 現場では、トンネル掘削に伴う盛土材を活用して道路改良が行われており、現在、盛土量の進捗率は51%（約27万m³／全体計画53万m³）、今後既存の老朽化した橋梁は撤去され、道路として整備される予定であり、今回の道路改良により、道路幅員の拡幅や平面線形の改善が図られ、これまでよりもカーブが緩やかになることで、自動車交通の安全性と円滑化を実現できるとの説明を受けた。 盛土を活用しつつ、将来に向かって地域交通の利便性向上につながられている取り組みであると感じた。	大平委員 今回の視察では特に感じられなかった。
正木委員 工事が順調に進んでいるようで、完成後も災害に負けない姿を見せてくれると安心です。	正木委員 ここは発生土をうまく生かしているが、これから発生する大量の土砂をどうしていくのか課題は山積みである
野崎委員 発生土のスケールの大きさを実感した。	野崎委員 自然の地形をここまで変えることに違和感を感じた。

遠山委員 発生土置場を近くで見たのははじめてだったので良かった。	遠山委員 他の場所の進行状況が気になった。
-------------------------------------	--------------------------